



# 集落支援員だより

No.1 2014. 2. 10

編集 いわき市中山間地域集落支援員 只野佑季  
TEL：86-2111 (いわき市三和支所内)

皆さん、こんにちは。只野佑季(ただの ゆき)です。

集落支援員として三和町で活動しています。これまで、地域おこしに



下三坂の福寿草(H26.1.21 撮影)

関する研修に参加したり、三和で行われるイベントのサポートなどをしてきました。今後は定期的に「集落支援員だより」の発行や、インターネット等を活用して多くの人に三和の情報発信をしていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

## \* 差塩三十三観音 \*

三和町差塩地区には、「良々堂山三十三観音霊場」という場所があります。そこには 33 体の観音像があり、参拝ルートに沿って山道を 2 時間ほど歩くとその観音様をすべて拝むことができます。

私が歩いたのは 9 月下旬でしたが、まだまだ緑も多かったです。季節によって山の表情も違うと思ひますので、みなさんも迷子にならないように気をつけて山歩きを楽しんでください！！



33 番 十一面観音

## ～水石山の雨乞い祭り☂～ in 合戸

昨年、7/14 に雨乞い祭りを復活させた合戸地区。今回、合津区長から、雨乞い祭りについてお話をうかがいました。

雨乞い祭りは昔々から続いてきた行事でしたが、昭和 27 年ごろに途絶えてしまったそうです。



水石山の看板には「頂部のくぼみに常時約 31 リットル(一斗七升五合)の雨水を蓄えている」とありますが、「不心得者が周辺部を壊したので、今は少ない」と水石山由来記に書かれています。「きっとその不心得者は罰が当たっただろうねえ」と合津区長。

そして水石のすごいところは“どんなに日照りが続いても窪みの水が枯れることはない！”ということ。夏は、海面で冷やされた湿度の高い風が夜間に吹きつけて、日中暖められていた石に当たり、冷却現象が起きて水が生成されるため、日照りになればなるほど水が溜まるというわけなのです。



大昔、雨乞い祭りは日照りで困ったときや、長雨のときに晴天を願って行われていたようですが、近代では人々が一堂に会し直会なほらいをする行事として、年に 1 回、行われていたとのこと。

## \*合戸いきいきサロンのクリスマス会\*



12/17に三和ふれあい館で行われた、合戸いきいきサロン（合戸のお年寄りが楽しく、介護予防をする集い）では手打ちそばが振る舞われました。三和のそば打ち名人たちが和気あいあいとそばを打っていきます。

お蕎麦が大好きな私も、そば打ちを見学させていただきました。

三和町永井産の新そば！

お蕎麦のいい香りがします。



完成～♪

かき揚げも手作り！

つゆも名人のこだわりが詰まった、丁寧に出汁をとったもの。

こんなに美味しいお蕎麦は毎日食べたいくらいです。

\*取材に協力いただいた皆様、ありがとうございました。\*

## ジャンボ門松



12/23に上三坂地区では、扇屋前の花壇にジャンボ門松の設置が行われました。区民の幸せや震災からの早期復旧・復興の願いが込められています。子供会の看板も設置してありました。



## ～凍み餅作り方講座～



三和には「凍み餅」という郷土食があります。ここでレシピを紹介したいと思います。

[夏の準備]

- 7月、雑木の山でヤマゴボウの葉を収穫→葉脈を取る。
- 天日で干して乾燥→乾燥したら揉んで細かくしておく。



[冬がやってきました❄️]

1. ヤマゴボウの葉を1日煮る。煮ていると水が黒くなってくる（灰汁）。煮た後は水を取り替えながら、水がきれいになるまで繰り返し洗う。
  2. うるち米(2升)の米粉ともち米(1升5合)を混ぜて蒸かしたら、ヤマゴボウの葉(煮て、しぼって直径10センチくらいのボール状に丸めたものを3つ)も一緒に入れて餅つき器でついていく。
  3. 型に入れて切った餅を藁などで編んでおく。
  4. 寒い日に水に浸してから1ヶ月くらい陰干し。
  5. 凍み餅を取り込むのは天気の良い日。
- ※材料の分量・作り方などは各家庭によって異なる場合があります。



## ❄️三和ふれあい館のお風呂❄️

(地下水を汲み上げて沸かしたお風呂です。)

- 営業時間：午前10時から午後5時まで  
(6月から9月は午前10時から午後8時まで)
- 入浴料：大人170円(中学生以上)  
小人80円(小学生) ※小学生未満は無料
- 休業日：毎月第3月曜日(休日のときには翌日の火曜日)  
12/29~1/3



(お風呂からみた雪景色)